

2014 年度学校評価（自己評価）

早稲田大学全体の改革の方向性、Vision 150 や SSH、SGH などの活動をふまえて 2014 年度の高等学院学校目標についてその達成状況について報告する。本年度は、個々の教職員・生徒の活動が収斂していく目標・項目として、下記の 9 項目を掲げた。

1. Waseda Vision 150 に基づく高等学院の将来構想の具体化
2. SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定に伴う構想の具体化
3. 日常教育活動全般の充実と改善
4. 中学部と高校の円滑な接続
5. 高校新教育課程の適切な実施
6. Waseda Vision 150 で改革を進める本部・各学院との連携強化
7. より開かれた学校に向けての施策
8. 第 2 期工事の順調な進捗と第 3 期以降の展望
9. 大地震への備え、および生徒教職員の安全確保

以下、各目標についてその遂行状況を概観する。

1. Waseda Vision 150 に基づく高等学院の将来構想の具体化

高等学院の改革は大学の vision 150 と方向性を共有している。世界に貢献する高い志を持った学生、グローバルリーダーとして社会を支える学生を育て、常に進化する仕組みを充実させることが必要で、そのための仕組みを作り上げる努力をした。具体的には SGH 指定を受けて本年度できる授業の内容の変更に着手、さらに 2015 年度から実施できる活動にむけての準備に取り組んだ。また、ロシア語圏でははじめてとなる、サンクトペテルブルグ国立 583 学校と学校間協定を結び、国際交流での質の向上、量的な拡大に努めた。

2. SGH(スーパーグローバルハイスクール)指定に伴う構想の具体化

高等学院が指定を受けたとの文科省の発表を受け、その具体化に着手した。高等学院の今後の発展・展開のため、一つの大きな柱としてその構想を実現していかなければならない。大学の事業計画にも示されている通り、大学全体のグローバル化は大変急速で SGU のトップ 10 型の大学を目指している。高等学院においても SGH を活用して、2014 年度には総合的な学習の時間等でさまざまな取組を始めたが、来年度以降、英語、第 2 外国語の取組、

オーストラリア研修を含む課外活動、オンデマンド講座など、さらに多くの課程内外での取組をする準備をした。

3. 日常教育活動全般の充実と改善

やるべきことを遺漏なく行い、授業改善や生活指導の質的向上を目指すことは大切である。大学のFDプログラムへの参加をはじめ、Good Practice の普及、救急法講習会など、さまざまな状況を想定して教育活動全般の向上を目指した。

4. 中学部と高校の円滑な接続

中学部第1期卒業生が高校2年生となった。徐々にさまざまなパイプが太くなっている。クラブ活動への中学部3年生の参加、その他行事や課外活動において連携しておこなえるものが増加してきた。今後も適切な形で連携し、成果が出るように努力を積み重ねていくことが大切である。

5. 高校新教育課程の適切な実施

2013年度から導入された新教育課程全般の成果を評価するにはまだ早いかもしれないが、これまでのところ順調に進んでいる。新学習指導要領を遵守しつつ、さらにそれ以上の内容を目指すよう、さまざま工夫を進めるようにした。

6. Waseda Vision 150 で改革を進める本部・各学院との連携強化

早稲田大学の13の核心戦略の中には

- ①入試制度の抜本的改革
- ②グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築
- ④対話型、問題発見解決型教育への移行
- ⑤大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進

などは、高等学院とも密接に関連し、また問題意識を多く共有している。各種の課題解決のため、大学で行われる各種教学会議、各学院との懇談などを通して意思疎通をさらに深めた。

7. より開かれた学校に向けての施策

すでに生徒がオープン教育センターの授業を受講しているが、さらに広い意味で、他校

生徒との交流、大学や研究所での活動などをおこなった。またプロジェクト活動等を通して社会人との交流もおこなった。教職員で言えば、学会、研究会、研修会への参加。また別に、地域社会との連携、外部団体との連携、などさまざまな連携をさらに進めていくことが望ましいと思われる。SSH、SGHはその意味でも良い機会であった。

8. 第2期工事の順調な進捗と第3期以降の展望

第2期工事は、3月10日に講堂棟が竣工式を迎えた後、体育館棟が8月に竣工して終了した。さらに北側グラウンドも人工芝化され、施設の充実が図られた。今後理科の実験室や準備室などについても早期の着工を展望していく。

9. 大地震への備え、および生徒教職員の安全確保

講堂棟、体育館棟の竣工に伴い備蓄品の管理、保管の環境が格段に改善した。全生徒教職員が3日程度、臨時宿泊できる体制が整い、安全確保の向上がなされた。

以上

2014年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

2014年度の重点目標の内「3. 日常教育活動全般の充実と改善」をより一層推進するため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度から始めて3回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 【保護者】高等学院は大学との一貫教育の推進に努めている
【生徒】（高校）高等学院は高大一貫教育の推進に努めている
（中学）高等学院は中高一貫教育の推進に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている（生徒は高校のみ）

IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている

- IV-2. 部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

V 授業や勉強などへのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる
- V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- V-3. 私は授業以外に積極的に取り組んでいるものがある

(2) アンケート結果

別紙の表を参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

I 学校全体の取り組みについて

質問項目1. 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で 58.2%（昨年度 61.2%）、生徒全体で 36.6%（昨年度 35.5%）が「そう思う」と回答している。保護者全体では「そう思う」の評価が昨年度よりやや下降した。「ややそう思う」の評価を加味すると、保護者全体で 90.1%（昨年度 92.4%）の回答を得たことになり、昨年度よりやや下降したとは言え、90%を超える高い水準にある。また生徒について「そう思う」に「ややそう思う」の評価を加味すると、74.1%（昨年度 73.6%）となる。本校の目指す教育理念としての「生徒の自主性・自立性の育成」に関して、保護者および生徒に深く浸透していることが指摘できるであろう。

質問項目2. 高校の「高大一貫教育の推進に努めている」では、高校生全体で「ややそう思う」が 37.4%（昨年度 39.5%）と最も多く、「そう思う」（31.1%）と合わせると 68.5%（昨年度 68.3%）となった。昨年同様、高い評価を得ているが、この結果に甘んじることなく、原則として卒業生全員が早稲田大学に進学する本校の特色を生かすためにも、高大一貫教育をこれまで以上に推進していくことが必要である。一方、中学では「中高一貫教育の推進に努めている」という間に対して「ややそう思う」が 32.3%と最も多く、「そう思う」（26.0%）と合わせると 58.3%となった。なお、本来この間は昨年同様「中高連携に努めている」とするはずのものが、誤って「中高一貫教育の推進に努めている」となってしまったものである。誤解のないように付け加えると、本校では、進学校に多く見られるような中学生に高校の内容を教えるといっ

た、教育課程の先取り授業は行っておらず、あくまでも中学と高校が連携して教育にあたるという意味で「中高一貫教育」あるいは「中高連携」という表現を用いている。

保護者の方では、中高とも同一の質問項目「高大一貫教育の推進に努めている」に対して、高校で47.7%が、中学では49.4%が「そう思う」と回答している。「ややそう思う」（高校39.8%、中学33.4%）と合わせると、高校では87.5%（昨年度89.2%）、中学では82.8%（昨年度79%）と非常に高い評価を得た。

質問項目3.「国際交流の推進に努めている」では高校生で「ややそう思う」が37.4%（昨年度39.0%）、「そう思う」が35.4%（昨年度33.2%）となっており、二つを合わせると72.8%（昨年度72.2%）と高い評価を得ることができた。中学生では「そう思う」が40.8%（昨年度23.2%）で最も高く、続く「ややそう思う」35.3%（昨年度46.4%）と合わせると76.1%（昨年度69.6%）となり、高校生と同様に高い評価を得た。保護者においては中高全体で「ややそう思う」が44.4%（昨年度45.1%）と最も多く、「そう思う」の31.0%（昨年度27.0%）と合わせると、75.4%（昨年度72.1%）と生徒同様に保護者においても高い評価を得ることができた。昨年度からスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定された本校としては、その取り組みが生徒・保護者に浸透してきている結果だと見ている。なお、本格的に活動を開始したSGHの取り組みのみならず、グローバル社会を見据え、今後さらに国際交流活動を推進することが必要であることはいままでもない。

II 学習指導について

質問項目1.「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、中学生・高校生とも「ややそう思う」が最も高く（中学44.9%、高校33.7%）、「そう思う」と合わせると、中学76.1%（昨年度81.5%）、高校53%（昨年度50.6%）となっている。中学は評価が下がったが高水準を維持しているといえるだろう。逆に高校は少し評価が上がっているが、まだ中学の水準にまでは達しておらず、質の高い授業を展開するために、今後とも日々の研鑽を積むことが求められている。

質問項目2.「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目3.「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価が相対的に低くなっている。ただ低評価（「そう思わない」ということではなく、生徒に関しては「どちらとも言えない」が最も多いので（質問項目2. 生徒全体34.1%、昨年度33.1%。質問項目3. 生徒全体34.0%、昨年度34.9%）、各教員の取り組みが生徒に正しく伝わるような授業展開を考える必要があるだろう。また、生徒一人ひとりの特性を生かし、学力を伸ばしていくようなきめ細やかな取り組みも必要である。

質問項目4.「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている（生徒全体34.3%、保護者全体45.8%）。日々の授業の評価が進級・進学に大きく影響する本校の性質上、適切な評価を行うことは当然のことであり、

「ややそう思う」ではなく、「そう思う」という評価を得られるよう、さらに改善すべき点である。

Ⅲ生徒指導について

昨年度と同様、1～4全ての項目において「そう思う」あるいは「ややそう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との関係が密であり、かつ良好なものであることがうかがえる。また、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が各ホームルームレベルで組まれていることが、この結果から読み取れるだろう。

卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている本校では、様々な機会を捉えて、自身の進路について考えさせる教育を行っている。学部説明会やモデル講義、また本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等の開催がそれにあたり、大学の情報を生徒・保護者へ適切に伝えるよう、努めている。今後もさらに大学とのパイプを太く保ち、生徒の適切な進路選択に結びつけていきたい。

Ⅳクラブ活動について

質問項目1. と2. については昨年と同様、保護者・生徒とも概ね高い評価が得られている。とくにこれらの質問項目について高評価を得ていることは、クラブ活動の基本的な姿勢が保たれていることを表している。この結果に甘んじることなく、さらに生徒の安全面に配慮しながらクラブ活動の活性化につなげていくことが必要である。高校生への質問項目3. 「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は、今年初めての項目である。高校1・2年生で「そう思う」が最も高く、僅差ではあるが高校3年生で「どちらとも言えない」が最も高くなっている。一方、保護者の方では、全体で「ややそう思う」がもっと高い結果になっており（25.7%）、「そう思う」（24.7%）と合わせると50.4%と高評価になっている（昨年度50.2%）。少しずつではあるが、部長（顧問）と生徒および保護者との連携を密にしていくよう、今後も取り組んでいきたい。本校でのクラブ活動への加入率は大変高く、またクラブ活動に参加する意義も大変大きい。クラブ活動を通してより多くのことを生徒が学び、成長できるよう、安全面に配慮しながら、今後もクラブ活動を活性化させることが必要である。

以上